

みなと地区未来づくりビジョン stage1

1. 地区の概要

市街地西部に位置する湊地区は、4つの区で構成され、交通の便が良く閑静な住宅街が広がっています。中心市街地に近いことからマンションが多く、学生や外国人居住者が多いことも特徴です。地区を東西に「さくら通り」が貫き、足羽川沿いには桜の開花時期に桜のトンネルとして有名になった「照手・木町桜並木通り」があり、自然が豊かな地区でもあります。

江戸時代には、九十九橋照手門が陸路においての福井城下入口として存在し、また、水路においては足羽川右岸沿いに船着場があり、今も「塩町」「木町」などの自治会名が多く残っています。さらに、江戸末期の歌人橋曙覧が住んでいた「藁屋」跡や福井藩家老の別邸「三秀園」跡、坂本竜馬と三岡八郎(由利公正)が会談した「藁屋」跡などの史跡も多くあります。



照手・木町桜並木通りは、福井市都市景観重要建築物等に指定されている。また、当通りのライトアップ活動は福井市景観賞2016に選ばれている。

2. 地区の課題

① 自治会組織の脆弱化に伴う地域活動の低迷

旧市街地内における湊地区の人口は、高齢化・少子化に伴って大きく減少し、併せて各自治会の世帯数も激減しています。その結果、自治会活動等が儘ならなくなっています。

一方、旧市街地外の湊地区では、大学が立地していることや幹線道路が東西南北に形成されていることによってマンションや新興住宅が数多く立地し、併せて学生や外国人居住者、さらに若い子育て世代の家族も数多く住んでいます。その結果、人口は増加したものの自治会への加入率は低く、自治会活動等の運営に大きな影響がでています。

自治会組織が脆弱化することによって、湊地区内の地域活動団体の組織自体も弱体化し、併せて地域活動自体も今後さらに低迷する可能性がでています。

② 公園施設の老朽化及び公園利用者の減少

湊地区内にある大小13(街区公園:11箇所、近隣公園:2箇所)の公園は、約半世紀前に整備された施設であるため、現在のニーズに合った公園となっていません。その結果、利用者も少なく維持管理ができていない状況となっています。さらに、三秀プール跡地については、未だ利用形態が決まっていない状況にあります。

③ 郷土の誇りである歴史文化が未活用

湊地区は、江戸時代、足羽川を利用して福井、三国間の物資輸送の集散地として栄えた地であるとともに、城下町の一画として寺社や下屋敷などが数多く立地していた場所です。

また、江戸末期に歌人橋曙覧が居住した「藁屋」跡や福井藩家老松平主馬の別邸「三秀園」跡、さらに坂本竜馬と三岡八郎(由利公正)が会談した「藁屋」跡など、歴史的にも重要な史跡があります。

しかし、戦災・震災の影響で、今では跡形もなく石碑が建っているだけとなっており、当時を偲ばせる工夫がされていません。

3. 地区の将来像とまちづくりの目標

「地区の将来像」

「であります」「ふれあい」「まなびあい」による持続可能なまち・湊 ～“湊”交流のまちづくりを目指して～

①住民の顔が見える、
住民主体のまちづくり

②水と緑のうるおいが
感じられるまちづくり

③湊の歴史文化を学び、
活用するまちづくり

4. 目標を達成するためには…

現在の湊地区内における自治会及び地域活動団体では、まちづくりを主体的に考え、行動することが難しくなっています。そのため、まちづくりの目標を達成するために先ず必要なことは、湊地区においてまちづくり活動を中心的に行っていく組織づくりです。

今後、まちづくり組織を編成し、その上で目標を達成するための施策を推進します。

5. 目標を達成するための施策

①「住民の顔が見える、住民主体のまちづくり」に向けた推進施策

1. 誰もが参加しやすい自治会及び地域活動団体となるための組織変革
2. 多文化共生によるまちづくりの推進
3. 地区住民の誰もが、まちづくりに参加できるようにワークショップ方式を導入
4. 次世代を担う湊こどもリーダーの育成

②「水と緑のうるおいが感じられるまちづくり」に向けた推進施策

1. 行政と地区住民との協働による公園の再整備
2. さくら通りと照手・木町桜並木通りの桜の景観を維持
3. 足羽川や芝原用水等における親水空間の整備
4. 越前湊さくら祭の舞台となる三秀プール跡地の再整備

③「湊の歴史文化を学び、活用するまちづくり」に向けた推進施策

1. ふるさとの歴史探訪みなと塾を中心とした湊の歴史文化を学ぶ講座の開催
2. 「藁屋」跡、「三秀園」跡、「貢屋」跡において、当時が偲ばれるような空間を整備
3. 三国湊など足羽川水運で湊地区との関係が深い各地域との交流
4. 歌人橋曙覽を基にした新しい湊地区の文化を発信

6. 実現に向けての取組

まちづくりを進める上で極めて重要なのは、地区住民が主体となって取組むまちづくりの成功事例を地区住民自らが体感することにあります。よって、以下の実現に向けた取組から進めていきます。

1. 越前湊さくら祭において、さくら通りと照手・木町桜並木通りの桜の景観を維持するため、「越前湊さくら基金」の創設を目指す。
2. ワークショップ方式を活用した行政と地区住民との協働による三秀プール跡地の再整備を目指す。
3. 湊地区的歴史を学ぶ講座の開催や三国湊との交流を通じて、湊地区的歴史と文化を体感する継続的な機会を設ける。